

発表者1：峯 真人（みね まひと） 医療法人自然堂峯小児科 理事長

演題名：コロナ渦の中で子どもたちに何が起きているのか？

～一般小児科診療所における受診理由の変化～

メールアドレス：

<略 歴>

1977年 日本大学医学部卒業 日本大学板橋病院小児科勤務

1981年 埼玉県立小児医療センター未熟児新生児科勤務

1984年11月 父の死亡により峯小児科継承

役職

日本小児科医会公衆衛生委員会担当理事

予防接種推進専門協議会副委員長

彩の国予防接種推進協議会会長

埼玉県小児保健協会会長

<講演要旨>

新型コロナウイルスの流行によって、子どもたちには多くの制約が強いられています。感染抑制だけに目を奪われて、そのリスクをすべて排除するという生活は、子どもたちにとって決して望ましいものではありません。

子どもたちにおける新型コロナウイルス感染症の特徴としては今までのところ、子どもは通常の社会生活上では「罹り難い」「うつし難い」「重症化し難い」らしいことが分かってきています。一方非常に変異し易いウイルスなので、常に注意・注視することは必要です。

このような中、昨年春ごろから、コロナ渦の中で子どもたちの当院への受診理由に変化がみられています。

- ・受診患者数が激減、特に感染症による受診者は明らかに減少
 - ・予防接種は全て個別接種のための受診者は横ばい（集団接種では減少）
 - ・乳幼児健診も個別健診のための受診者は横ばい（集団健診では減少）
 - ・不定愁訴（だるさ、頭が重い、眠れない、起きられない、食欲がない、ドキドキする、めまい、立ち眩み、疲れやすい、ものが飲み込めない、腹痛、便秘気味、繰り返す下痢など）による受診者の増加
 - ・肥満、痩せなどの摂食関連の相談での受診者の増加
 - ・無口・多弁、吃音、寝言などが気になる相談での受診者の増加
 - ・自閉症スペクトラム障害、AD/HDなどの児の症状悪化による相談の増加
 - ・子どもから親への家庭内暴力、リストカットなどの問題行動の相談の増加
 - ・今まで気にしていなかった症状（低身長、思春期早発等）での受診者の増加
- などの受診理由の変化傾向がはっきりしてきています。

そこで子どもや保護者に日頃からかかわる方へのお願いです。

- ・長期の学校閉鎖等が子どもたちに与える影響を見極める「目」を持っていたきたい。

- ・今季の新型コロナウイルスの流行により、既に子どもたちに生じてしまった影響への対応と、今後影響を拡げないようにするための対策を取っていただきたい。
- ・子どもたちの周囲の大人たちによる、経験と感性に基いた気づきや判断は、子どもたちとその家族の未来までも救うことになると思いますので、正しい情報を保護者だけでなく子どもたちに係わる多くの方たちにも共有していただき、子どもたちを守っていただきたい。

非日常の生活における不安や負担、迷いなどを十分言語化できない子どもたちを守る為の主役は子どもの代弁者でもある小児科医であると感じています。

本記者懇談会では今子どもたちに何が起きているのかをお話したいと思います。